



報告していただいたデータが活かされています!

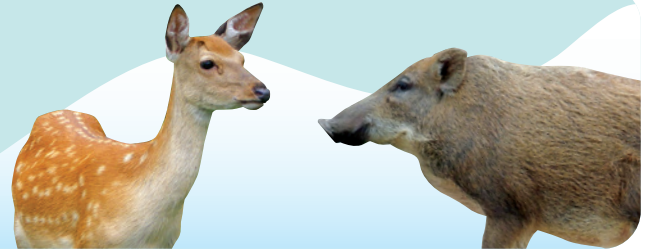
平成 27 年度

出猟カレンダー 結果報告



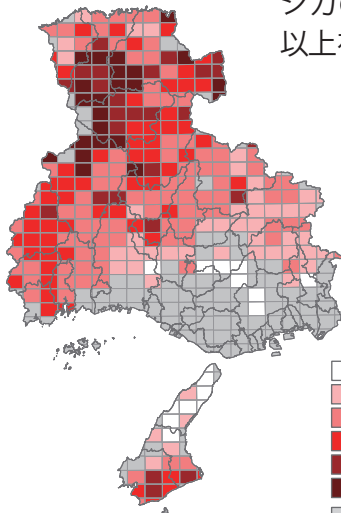
●●● 兵庫県に登録の狩猟者の皆様へ ●●●

毎年「出猟カレンダー」などの調査にご協力いただき、ありがとうございます。集計した情報は、県の狩猟制度の調整や被害対策のための基礎資料として活用しております。昨年度の集計結果の一部を紹介いたします。皆様の参考にできれば幸いです。



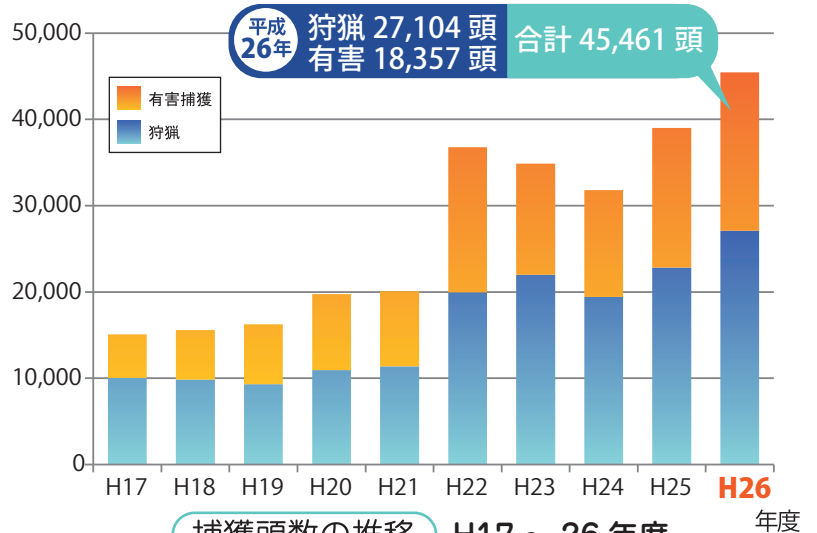
シカの捕獲頭数は過去最高 4万5千頭超え

シカの捕獲頭数は5年連続で3万頭を超え、平成26年度には4万5千頭以上を捕獲しました。皆様のご協力による継続的な対策の効果がでています。



目撃効率 H26年度

銃猟1人1回あたりの目撃頭数

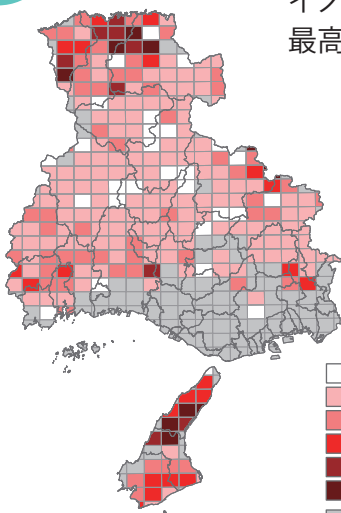


捕獲頭数の推移 H17～26年度



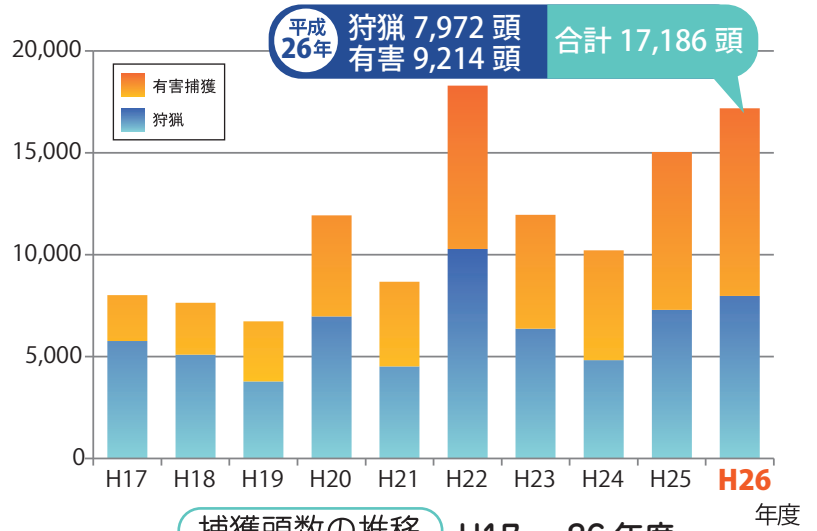
イノシシの捕獲頭数は過去2番目 1万7千頭超え

イノシシの捕獲頭数は、年ごとにばらつきがあり、平成22年度は過去最高でしたが、平成26年度はその年に次いで、高い捕獲頭数でした。



目撃効率 H26年度

銃猟1人1回あたりの目撃頭数



捕獲頭数の推移 H17～26年度

出猟カレンダー ご記入のお願い

自動読み取り用紙になっております。
下記の注意事項を守って記入願います。

- ・鉛筆や黒色のボールペンでお書きください。
- ・枠からはみ出さないように、お書きください。
- ・折り曲げたり、汚したりしないでください。
- ・捕獲がない場合も、氏名等を記入して提出してください。
- ・設置や捕獲がない場合、記録は空欄のままでも結構です。

① わな猟用

注意 設置記録 と 捕獲記録 にわけてお書きください!

設置記録 シカ・イノシシ目的であれば、捕獲実績のないわなについても記録してください。

撤去や追加があっても、期間中に設置したわなの数で結構です

メッシュ番号	設置場所 (市町・地区)	開始日	終了日	台数		
				くくり	箱	囲い・柵
079	〇〇市△△町××	12月8日	1月26日			5
104	〇〇市△△町××	11月15日	11月30日	12		
008	××市××町〇〇	2月1日	2月9日	7		1

「兵庫県鳥獣保護区等位置図」3ケタのメッシュ番号を記入

1ケタの場合右につめる

設置場所以外は数字を記入

捕獲記録 捕獲日ごとに、メッシュ番号ごとに、捕獲頭数をご記入ください。

捕獲日	メッシュ番号	くくりわな				箱わな・柵				囲いわな・柵			
		シカ		イノシシ		シカ		イノシシ		シカ		イノシシ	
		オス	メス	オス	メス	オス	メス	オス	メス	オス	メス	オス	メス
12月14日	079					3	1						
2月4日	008											2	
2月5日	008		1								1		

同じ日に同じメッシュ番号で捕獲されたら一行にまとめる

間違えたら消しゴムや修正液等で消す
横線や斜線等で訂正しないでください

② 銃猟用

シカ・イノシシ猟の都度、ご記入ください。

目撃や捕獲がなかった日も記入

間違えたら消しゴムや修正液等で消す
横線や斜線等で訂正しないでください

出猟日	メッシュ番号	出猟場所 (市町・地区)	同行者数 (自分も含む)	シカ						イノシシ			
				目撃数			捕獲数			目撃数		捕獲数	
				オス	メス	不明	オス	メス	オス	メス	オス	メス	
12月8日	079	〇〇市△△町××	16人	4	5	3	1	1	1				
11月15日	008	××市××町〇〇	1人										
12月4日	104	〇〇市△△町××	12人	2	1								

1ケタの場合右につめる

自分が目撃した頭数を記入
(同行者と重複してもかまいません)
捕獲したものは、目撃数には含めない

自分が捕獲した頭数だけ記入
(同行者と重複しないようにしてください)

マダニ媒介性の感染症にご注意ください



調査協力
兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 山内健生
NPO 法人大山捕獲隊

マダニを介して発症する重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) が、一昨年日本で報告されました。マダニ媒介性の感染症は、他にも日本紅斑熱、ライム病などがあります。全てのマダニが病原体を持っているわけではありませんが、これらの感染症を予防するために、マダニに刺されないようにご注意ください。

・マダニは森林内やヤブにも潜んでいます

野生動物に直接接触しなくても、野外で活動した場合はマダニの付着に注意を払いましょう。

・マダニはほぼ全ての野生動物（幼獣も含む）に寄生しています

感染症媒介に関わるとされるフタトゲチマダニ、タカサゴキアラマダニ（右写真）などのマダニが野生動物に寄生していることが、兵庫県でも確認されています。

・中型野生動物（アライグマやハクビシンなど）には、目立ちにくい小さなマダニ（1～2mm程度）が多く寄生しています

これらは主にマダニの幼虫・若虫であり、これらも吸血行動をします。



フタトゲチマダニ



タカサゴキアラマダニ

写真提供：兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 山内健生

マダニ媒介性感染症、対処法に関する詳しい情報については以下をご参照下さい。
兵庫県HP、『マダニの感染症「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」に注意しましょう』
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/tjk06/madani-sfts.html>

